

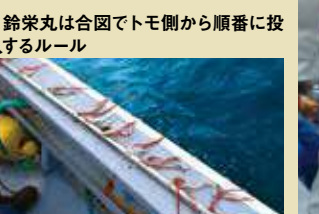
★水深290メートルからの流し
で3キロと4キロのダブル



▲釣り場は航程2時間ほどの太東沖、水深は250～400メートル前後
◀若船長の優哉さんが船中最初の2キロ級を上げた
▼船宿仕掛けて本命ゲット



◀筆者もキンメを手にした
▼早朝は30～40センチ級のキンメが多
点掛けて釣れる一幕も



◀鈴栄丸は合図でトモ側から順番に投入するルール

▲投入は掛け枠を使うか、もしくは釣りに取り付けたマグネット板(貸し出し無料)にハリを並べ、同じ仕掛けを繰り返して使ってもいい
▶仕掛けのハリ数は10本以内、オモリ500号もしくは鉄筋オモリ2キロを使用。エサは持参だが定番のイカの切り身は船宿で販売

◀タックルはPE12号を1000メートル以上巻いた大型電動リールと深海竿の組み合わせが一般的だが、キハダタックルでもチャレンジできる



アコウが浅場とはこれいかにかに？ 深海の人気魚を狙う好期到来

撮影◎権名義徳

深海釣りの人気魚アコウダイが春の好期を迎えた。主な釣り場は水深400～650メートル前後になるターゲットだが、産卵で300メートルを切る浅い海域に群れが乗り込み狙いやすくなる春～初夏は、ファン待望の時期。

外房大原港の鈴栄丸に釣行した3月中旬の取材日は、速潮に阻まれた2～4キロ級が船中4尾と苦戦したものの潮が緩んだ翌日は5キロ級を頭に4～5点掛けが連発と一転好況に。船長によればポイントには群れが固まっているとのこと、潮具合など条件が整えば驚くような釣果に恵まれるだろう。

(詳細は50ページ参照)

◎外房大原港・鈴栄丸
左から斎藤 優哉船長、俊一郎船長、俊太船長